

● JIS G3454

● 種 類 | STPG 370 E STPG 370 S

● 適用範囲 | 350°C程度以下で使用する圧力配管に用いる。

■ 化学成分

種 類	記 号	化 学 成 分 (%)				
		C	Si	Mn	P	S
2種	STPG 370	0.25以下	0.35以下	0.30~0.90	0.040以下	0.040以下

■ 機械的性質

種類	記 号	引 張 試 験						曲げ試験	
		引張強さ (N/mm ²)	降伏点 又は耐力 (N/mm ²)	伸 び (%)				曲げ 角度	内側半径
				11号試験片 12号試験片	5号試験片	4号試験片			
縦方向	横方向			縦方向	横方向				
2種	STPG 370	370以上	215以上	30以上	25以上	28以上	23以上	90°	管の外径 の6倍

■ 外径、厚さの許容差

区 分	外径の許容差	厚さの許容差
熱間仕上継目無鋼管	40A以下 ±0.5mm	4mm未満 +0.6mm -0.5mm 4mm以上 +15% -12.5%
	50A以下 ±1% 125A以下	
	150A ±1.6mm	
	200A以上 ±0.8% 但し350mm以上は周長によることができる。 この場合の許容差は±0.5%とする。	
冷間仕上継目無鋼管 及び 電気抵抗溶接鋼管	25A以下 ±0.3mm	3mm未満 ±0.3mm 3mm以上 ±10%
	32A以上 ±0.8% 但し350mm以上は周長によることができる。 この場合の許容差は±0.5%とする。	

【備考】

1. 外径の測定に周長を用いる場合の判定は、周長実測値又は実測値の換算直径のいずれによってもよい。いずれも同一許容差(±0.5%)を適用する。ただし、直径(D)と周長(l)の相互換算は、次式によって計算する。

$$l = \pi \cdot D$$

ここに、 $\pi = 3.1416$ とする。

2. 手入部等の局所的な部分については、厚さの許容差が、上表を満足していることが確認できる場合は、上表の外径の許容差を適用しない。